

JATA22-012

2023年1月1日

2023年 JATA 会長 年頭所感 “Reborn” 新たなツーリズムを目指して

一般社団法人日本旅行業協会
会長 高橋 広行

2023年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

約2年半以上に及ぶコロナ禍を経て、昨年はツーリズムの復活に向けた新たな一步を踏み出した年となりました。10月の水際対策の大幅緩和や円安もあいまって、訪日旅行が急速に回復するなど、ようやく国際交流の動きが活発化してきました。国内旅行においても県民割や全国旅行支援の追い風もありマーケットの回復が見られ、旅行業界全体としては明るい兆しが見えてきました。

そうしたなかで新たに迎えた2023年は、海外旅行をどのように回復させるかが最重要テーマであると考えております。国内旅行・訪日旅行については回復の道筋は見えつつあるものの、海外旅行は未だ足踏みをしている状況です。円安や旅行費用の高騰など外的要因もありますが、根本的にはお客様のマインドをいかにして高め海外旅行への機運醸成を図るか、マーケットへの仕掛けが重要だと認識しています。最終的には、国内旅行・訪日旅行・海外旅行を三位一体となってバランス良く回復させることが、ツーリズム業界全体の発展に繋がると確信しています。

そして、コロナ禍によりお客様の価値観は大きく変化しました。旅行についても同様であり、国内外のお客様から選ばれ続けるためには、安心・安全はもちろんのこと、新たな時代のニーズにマッチした「価値」の提供が求められます。グローバルな視点に立って観光素材を磨き上げ、魅力あるストーリーを創り、お客様の琴線に触れる商品やサービスを提供していく必要があります。あわせて、業界全体としてSDGsを実践し、脱炭素など環境に配慮したサステナブルな旅行を提供することも不可欠です。

このような新たな局面への対応こそが、旅行会社の存在価値が問われる場面です。これまでの旅行業の範疇に留まらず、私たち自身が生まれ変わりマーケットを拡大し、新たな価値を創造し続けていくことは、ツーリズムの新たなステージに繋がると考えております。

その他にも課題が山積しております。人的リソースの不足など旅行を提供するためのインフラの再構築や仕入環境の変化への対応、観光産業全体の生産性の向上、そしてDXなどの諸課題への対応も求められています。

2023年は会員会社一丸となって様々な課題解決に取組み、新たな時代のニーズを捉えた価値ある旅行を創造し、お客様のご期待に応えてまいります。本年も皆様のご指導・ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。